＝　病院の理念　＝
人間の尊厳と患者の権利を守り、安全・安心の医療、差別のない医療、納得の医療を患者様や地域の方々とともに目指します。

東葛の健康

№ 462　2023年 2月号
〔毎月５日発行 定価１部20円〕
発行　東京勤労者医療会東葛病院
院長　井上　均

〒270-0153　千葉県流山市中102-1
TEL 04（7159）1011㈹
FAX 04（7158）9202
http://www.tokatsu-hp.com/services/out/organization/

「地域多機能病院」として充実を

東葛の医療
2023年の勤医会

在宅医療支援と介護事業の機能が重要

下正宗理事長

改めて勤医会とは

東京勤労者医療会（以下、勤医会と略）は、渋谷区の代々木病院、流山市の東葛病院、三郷市のみさと協立病院という東京、千葉、埼玉にそれぞれ拠点となる病院を有する法人です。それぞれの病院の周囲で診療所、訪問看護ステーション、介護に関わる事業を展開しています。

2023年度は勤医会が大きな法人形態の変更を実務的に行うことになります。

今年の法人の課題

この法人再編のプロジェクトは、東京民医連第5次長期計画（2015年度～2020年度）において提起された「ブロック機能を重視し、医療機能や介護機能の集中再編と法人を超えた連携を進める中で、ブロックの中長期計画やブロック構想の論議を」の方針に基づくものであり、民医連運動の根幹である、無差別・平等の医療と福祉を実現する運動を各ブロックで維持・発展させていくための基盤を固めるものです。

健和会とすすめる法人再編

2021年末に勤医会は東京東部地区で柳原病院や埼玉県三郷市でみさと健和病院を中心に医療展開している健和会と共に法人再編の議論を開始する方向でそれぞれの法人スタッフに対して法人の再編に関わる文書を発出しました。

2022年はその文書に基づいて、法人管理部ばかりでなく、看護部門、リハビリテーション部門等で具体的なその協議をすすめてきました。

三郷市での展開

2023年はいよいよ三郷市で、つくばエクスプレスの北にあるみさと協立病院と南にあるみさと健和病院がどのような連携の中で医療を展開するかの具体的な構想協議に入ります。

すでに、みさと中央医療駅前にみさと中央医療福祉ビルが建設され、その中で、みさとメンタルクリニック（勤医会）、まちかどひろばクリニック（健和会）、就労移行支援事業所ラ・ポルタ（アカシア会）、におどり薬局（東都ファーマシー）などが連携しながら事業を展開しています。

みさと中央医療福祉ビル外観

東京の法人合同

健和会との連携の動きとは別に、はたがや協立診療所を拠点として活動をしている医療法人社団はたがや協立会との合同のための本申請を行いました。まもなく、法人合併認可のための公告がなされる予定です。

地域多機能病院

法人の再編を機に、改めて各地域の医療状況の把握とそれぞれの地域での役割の見直し、システムの再構築を検討しています。

国の地域医療構想による「病床機能の分化・連携」では、病棟の類型として、高度急性期、急性期、回復期、慢性期として示されていますが、国の思惑のように再編が進んでいないとも言われています。これは、地域ニーズを国が正確に把握していないことを示していると考えます。

竹久洋三氏（慢性期医療協会名誉会長）は、高度急性期以外の病院を、急性期・回復期・慢性期ではなく、地域多機能病院として機能を明らかにすることを提案しています。

地域多機能病院は、高齢者に対する救急医療にきちんと応える体制を整え、急性期治療中からリハビリテーションを提供し、ＡＤＬを落とすことなく地域や施設に退院していくことが求められています。これは、まさに、私たちが地域の中で取り組んできた医療活動そのものです。

また、この病院の機能では、在宅医療支援機能も極めて重要なものとなってきます。これまで、事業所ごとの活動が中心で、これからもそのスタイルは継続しつつも、在宅医療をキーワードに病院スタッフも巻き込んだ連携も必要になってきます。3拠点病院を中心としてネットワークを構築し地域ニーズに応えていく体制を検討していきます。

３つの法人・事業所が連携する

介護事業の重要性

高齢者が地域で生活していくうえで、医療と並んで有用なインフラは介護関係の事業です。コロナ禍で、介護関係の事業所の医療面でのバックアップが極めて貧弱であることが明らかになりました。また、行政の視点でも、医療は医療、介護は介護で、役所の中でも縦割りで連携が不十分な状況でした。医療保険、介護保険という制度も並走しているので状況はさらに複雑です。高齢者にとって介護に関わる要であるケアマネージャーとより密な連携をとる中で、安全で安心できる地域での生活が守られると考えます。行政組織とも協力しながら仕組みの構築をめざしたいと考えています。

拡がる事業団の役割

2022年10月1日に労働者協同組合法が施行されました。「事業団」という略称で呼ばれており、勤医会も病院、診療所の清掃やビル管理の業務などを委託していますが、実は旧東葛病院での業務が「事業団」の仕事のはじまりでした。

「事業団」はワーカーズコープと名前を変え、また新しく施行された労働者協同組合法に基づいた事業体になりました。

現在では、全国さまざまな地域で、子育て、ケア、第一次産業、若者・困窮者支援などの事業に取り組んでいます。東葛地域でさまざまな事業を展開し、流山では「こども食堂ネットワーク」の事務局的機能を担っています。

私たちも医療にとどまらず、地域でどんなことが起きているのかに対してアンテナを高くして、共同組織の仲間のみなさん、行政をはじめとしたさまざまなみなさんと協力しながら、安全で安心して暮らしていける地域づくりのために貢献していきたいと考えています。

聴診器

昨年の流行語大賞は「青春は密なんで」だった▼確かに若かりし頃は集団生活の場が多かった。でもコロナ禍は若者達から「その場」を奪った▼一昨年は部活動そのものが禁止で成果を見せる大会も中止。目標が無くなった無力感は相当なものだろう▼今も学校生活では修学旅行短縮、部活動制限、各種イベント人数制限が続いている▼しかし大人の世界はどうだ。「飲み会はどうする」、「海外旅行はどうする」…▼こんな状況を子ども達はどう感じているだろう。子ども達は大人たちが決めたことを守って、大人を信じて行動していることを忘れてはならない▼受験生にとってはコロナと闘いながら一発勝負の受験が控えている。どれほどのプレッシャーを感じているだろう▼われわれ大人たちが知恵を絞って子どもに何ができるのか考えて欲しいものだ▼新年から言いたくはないが、主要先進国で若者の死因の第一位が「自殺」である国が日本である事実は伝えたい。未来ある国へはほど遠い。（横）